

平成三十一年度 文学部 和食文化学科

推薦入試 小論文 問題用紙

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。
- 5 この冊子の問題は六ページから成り立っている。
- 6 この冊子のうちに落丁・乱丁及び印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 字数制限のある解答では、問題文の指示に従うこと。
- 8 試験開始後六〇分を経過しないと退室できない。また、試験終了前一〇分間は退室できない。試験時間の途中で退室するときは、手をあげて申し出た上で、試験監督者の指示に従うこと。なお、解答用紙は机上に置き、その上に試験監督者が配付する用紙を重ね、問題冊子は持ち帰ること。

一

和食文化を学ぶ上で、日本の美意識を理解することは重要である。次の文章は、著者が、清少納言の書いた『枕草子』について論じた文章の一部である。清少納言の美意識に触れながら、著者の考えている『枕草子』についての考え方を四百字程度で論じなさい。なお、改行した空白部分や、句読点、カギ括弧なども含めて四百字程度（三六一字から四四〇字まで）とする。また、設問の都合上、文章の一部を改めたところがある。

（著作権の関係で掲載しておりません）

(著作権の関係で掲載しておりません)

(著作権の関係で掲載しておりません)

(著作権の関係で掲載しておりません)

(上田三四二「清爽の世界」より)

(注) ○高麗縁……貴族の邸宅や社寺などで用いられた高級な畳の縁、または畳。 ○中宮定子……藤原定子。平安中期、一条天皇の皇后。関白道隆の娘。女房として清少納言が仕えた。 ○わが心なぐさめかねつ……『古今和歌集』あるいは『大和物語』に見える和歌の一節。 ○中宮を襲った悲運……道隆とその子たちの没落や死去。 ○道長……藤原道長。平安中期の公卿。娘彰子らを入内させ三代の外戚となる。藤原氏の全盛時代を出現させた。 ○丹花を銜みて巷を行けば、畢竟、惧れはあらじ……岡本かの子の小説「花は勁し」の一節。 ○かりのこ……かるがもの卵。 ○削り氷……かき氷。 ○あまづら……甘味料。

- 問1. 下線部(1)の文章で述べられている、端午の節句が「菖蒲の節句」ともいわれる理由を2つ、日本語で記載しなさい。
- 問2. 下線部(2)の文章では、端午の節句が男子のたくましい成長を祈る行事として定着したと述べられている。平安時代には宮中行事であった端午の節句が現代では男子の節句となった経緯を、日本語で記載しなさい。
- 問3. 一般的な粽の製造方法が述べられている下線部(3)の文章を和訳しなさい。また、一般的な粽と伝統的な粽の、材料の違いと製造方法の違いを、日本語で記載しなさい。
- 問4. 下線部(4)は、西暦 A 年から西暦 B 年までの C 年間を指す。A と B と C の数字を記載しなさい。
- 問5. 下線部(5)の文章では、伝統的な粽の材料を得ることが困難となっているある問題について述べられている。ある問題の原因を日本語で記載しなさい。また、あなたが考えるある問題の解決策を3つ提案して、提案した理由とともに日本語で論じなさい。

- 二 以下の英語の文章は、端午の節句と粽（ちまき）を外国人に紹介した文章の一部である。以下の問題に答えなさい。

(著作権の関係で掲載しておりません)

【Blue Signal (JR-West), 178, 14-15, 2018 より抜粋・改変】

注) eaves = 軒 (のき), ひさし

kneading = knead (練る) の現在分詞